

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書の訂正報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第4項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成27年11月16日
【四半期会計期間】	第48期第1四半期（自 平成27年1月1日 至 平成27年3月31日）
【会社名】	株式会社小僧寿し
【英訳名】	Kozosushi Co.,LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 磯村 明彦
【本店の所在の場所】	東京都中央区築地三丁目9番9号
【電話番号】	03 - 6226 - 4400（大代表）
【事務連絡者氏名】	取締役財務経理部長 片野 裕之
【最寄りの連絡場所】	東京都中央区築地三丁目9番9号
【電話番号】	03 - 6226 - 4400（大代表）
【事務連絡者氏名】	取締役財務経理部長 片野 裕之
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

1【四半期報告書の訂正報告書の提出理由】

当社は、一部の取引業者との仕入取引において、架空取引による不適切な仕入高の計上及び支払処理が行われていた可能性があり、その影響が平成25年10月から平成27年5月までの複数年に及んでいる疑義が発生したことを受け、平成27年10月2日に外部の専門家を含む調査委員会を設置し、事実関係の調査を実施いたしました。

当該調査の結果、架空取引による不適切な仕入高の計上及び支払処理が行われていた事実が判明し、その結果として不適切な会計処理が確認されたため、過年度における決算の訂正が必要となりました。

これらの決算訂正により、当社が平成27年5月15日に提出いたしました第48期第1四半期（自平成27年1月1日至平成27年3月31日）に係る四半期報告書の一部を訂正する必要が生じたので、金融商品取引法第24条の4の7第4項の規定に基づき、四半期報告書の訂正報告書を提出するものであります。

なお、訂正後の四半期連結財務諸表については、赤坂・海生公認会計士共同事務所により四半期レビューを受けており、その四半期レビュー報告書を添付しております。

2【訂正事項】

第一部 企業情報

第1 企業の概況

1 主要な経営指標等の推移

第2 事業の状況

3 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析

(1) 業績の状況

第4 経理の状況

2. 監査証明について

1 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

四半期連結包括利益計算書

注記事項

(セグメント情報等)

セグメント情報

(1株当たり情報)

3【訂正箇所】

訂正箇所は_____線を付して表示しております。

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

(訂正前)

回次	第47期 第1四半期連結 累計期間	第48期 第1四半期連結 累計期間	第47期
会計期間	自平成26年 1月1日 至平成26年 3月31日	自平成27年 1月1日 至平成27年 3月31日	自平成26年 1月1日 至平成26年 12月31日
売上高 (千円)	3,241,011	1,811,645	12,068,191
経常損益 (千円)	<u>153,809</u>	<u>51,547</u>	<u>996,316</u>
四半期(当期)純損益 (千円)	<u>156,468</u>	<u>91,358</u>	<u>1,584,258</u>
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	<u>156,468</u>	<u>91,358</u>	<u>1,584,258</u>
純資産額 (千円)	<u>858,810</u>	<u>837,744</u>	<u>929,102</u>
総資産額 (千円)	<u>3,259,093</u>	<u>2,802,576</u>	<u>3,699,026</u>
1株当たり四半期(当期)純損益金額 (円)	<u>8.82</u>	<u>3.07</u>	<u>63.04</u>
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	<u>26.2</u>	<u>29.8</u>	<u>25.1</u>

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には消費税等は含まれておりません。

3. 経常損益、四半期(当期)純損益及び1株当たり四半期(当期)純損益金額の は、損失であります。

4. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期(当期)純損失金額であるため記載しておりません。

(訂正後)

回次	第47期 第1四半期連結 累計期間	第48期 第1四半期連結 累計期間	第47期
会計期間	自平成26年 1月1日 至平成26年 3月31日	自平成27年 1月1日 至平成27年 3月31日	自平成26年 1月1日 至平成26年 12月31日
売上高 (千円)	3,241,011	1,811,645	12,068,191
経常損益 (千円)	<u>144,965</u>	<u>30,643</u>	<u>958,528</u>
四半期(当期)純損益 (千円)	<u>147,624</u>	<u>70,454</u>	<u>1,546,470</u>
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	<u>147,624</u>	<u>70,454</u>	<u>1,546,470</u>
純資産額 (千円)	<u>871,473</u>	<u>900,255</u>	<u>970,709</u>
総資産額 (千円)	<u>3,269,013</u>	<u>2,861,025</u>	<u>3,740,109</u>
1株当たり四半期(当期)純損益金額 (円)	<u>8.32</u>	<u>2.37</u>	<u>61.53</u>
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	<u>26.6</u>	<u>31.4</u>	<u>25.9</u>

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には消費税等は含まれておりません。
3. 経常損益、四半期(当期)純損益及び1株当たり四半期(当期)純損益金額の は、損失であります。
4. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期(当期)純損失金額であるため記載しておりません。

第2【事業の状況】

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 業績の状況

(訂正前)

当第1四半期連結累計期間（平成27年1月1日～平成27年3月31日）における我が国経済は、企業収益に改善の動きがみられるなど緩やかな回復基調で推移しました。しかしながら、円安に伴う実質所得の低下など消費動向は依然として不透明な状況が続いております。

外食産業におきましては、お客様の根強い節約志向が続く中で販売競争が激化するとともに、原材料価格の上昇もあり、依然として厳しい経営環境が続いております。

このような状況の中で、当社グループは「赤字体質からの脱却、黒字転換の実現」を当期の事業方針の主題として掲げており、当社の主軸事業である持ち帰り寿し事業の再建を目的とした、不採算店舗の閉店及びオペレーションの見直しによる収益構造の改善を実施しております。また一方で、持ち帰り寿し事業とは異なる、収益の柱となる事業を創出するため、ラーメン事業への進出を進めてまいりました。

以上の結果、売上高に関しましては、事業方針に掲げる不採算店舗の撤退を実施したことに起因し、売上高は18億11百万円（前年同期比44.1%減）となりました。営業損失は、不採算店舗の閉店及びオペレーションの見直しを実施したことから収益構造の改善が進みましたが、当第1四半期連結累計期間内において閉店いたしました不採算店舗の損失の影響や、株主優待券の駆け込み消費が想定以上に発生したことにより、63百万円の営業損失（前年同期は1億81百万円の営業損失）、経常損失は51百万円（前年同期は1億53百万円の経常損失）となりました。また、四半期純損失は、閉鎖店舗に係る退職金の支払い等が発生したため、91百万円（前年同期は1億56百万円の四半期純損失）となりました。

(訂正後)

当第1四半期連結累計期間（平成27年1月1日～平成27年3月31日）における我が国経済は、企業収益に改善の動きがみられるなど緩やかな回復基調で推移しました。しかしながら、円安に伴う実質所得の低下など消費動向は依然として不透明な状況が続いております。

外食産業におきましては、お客様の根強い節約志向が続く中で販売競争が激化するとともに、原材料価格の上昇もあり、依然として厳しい経営環境が続いております。

このような状況の中で、当社グループは「赤字体質からの脱却、黒字転換の実現」を当期の事業方針の主題として掲げており、当社の主軸事業である持ち帰り寿し事業の再建を目的とした、不採算店舗の閉店及びオペレーションの見直しによる収益構造の改善を実施しております。また一方で、持ち帰り寿し事業とは異なる、収益の柱となる事業を創出するため、ラーメン事業への進出を進めてまいりました。

以上の結果、売上高に関しましては、事業方針に掲げる不採算店舗の撤退を実施したことに起因し、売上高は18億11百万円（前年同期比44.1%減）となりました。営業損失は、不採算店舗の閉店及びオペレーションの見直しを実施したことから収益構造の改善が進みましたが、当第1四半期連結累計期間内において閉店いたしました不採算店舗の損失の影響や、株主優待券の駆け込み消費が想定以上に発生したことにより、21百万円の営業損失（前年同期は1億72百万円の営業損失）、経常損失は30百万円（前年同期は1億44百万円の経常損失）となりました。また、四半期純損失は、閉鎖店舗に係る退職金の支払い等が発生したため、70百万円（前年同期は1億47百万円の四半期純損失）となりました。

第4【経理の状況】

2. 監査証明について

(訂正前)

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間(平成27年1月1日から平成27年3月31日まで)及び第1四半期連結累計期間(平成27年1月1日から平成27年3月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、監査法人和宏事務所による四半期レビューを受けております。

なお、当社の監査人は次のとおり交代しております。

第47期連結会計年度

東陽監査法人

第48期第1四半期連結会計期間及び第1四半期連結累計期間

監査法人和宏事務所

(訂正後)

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間(平成27年1月1日から平成27年3月31日まで)及び第1四半期連結累計期間(平成27年1月1日から平成27年3月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、監査法人和宏事務所による四半期レビューを受けております。

なお、当社の監査人は次のとおり交代しております。

第47期連結会計年度

東陽監査法人

第48期第1四半期連結会計期間及び第1四半期連結累計期間

監査法人和宏事務所

なお、金融商品取引法第24条の4の7第4項の規定に基づき、四半期報告書の訂正報告書を提出しておりますが、訂正後の四半期連結財務諸表について、赤坂・海生公認会計士共同事務所による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(訂正前)

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成27年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,257,113	1,066,766
受取手形及び売掛金	439,852	226,949
商品	303,661	151,047
貯蔵品	20,759	21,844
その他	425,905	293,226
貸倒引当金	158,091	139,106
流動資産合計	2,289,202	1,620,728
固定資産		
有形固定資産	183,544	133,311
投資その他の資産		
投資有価証券	7,232	7,232
敷金及び保証金	1,071,123	1,002,218
長期前払費用	3,727	3,238
破産債権等に準ずる債権	430,664	294,608
その他	37,725	31,233
貸倒引当金	324,192	289,994
投資その他の資産合計	1,226,280	1,048,536
固定資産合計	1,409,824	1,181,848
資産合計	3,699,026	2,802,576

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成27年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	509,731	234,597
短期借入金	100,000	100,000
1年内返済予定の長期借入金	100,000	100,000
リース債務	6,125	6,110
未払金	670,839	405,633
未払法人税等	21,479	6,463
賞与引当金	2,300	3,302
資産除去債務	145,277	72,427
店舗等閉鎖損失引当金	79,251	37,109
その他	190,141	157,541
流動負債合計	1,825,145	1,123,186
固定負債		
長期借入金	200,000	200,000
リース債務	10,217	8,633
資産除去債務	259,044	260,674
長期未払金	264,984	264,200
訴訟損失引当金	22,757	22,757
その他	187,775	85,380
固定負債合計	944,778	841,645
負債合計	2,769,924	1,964,832
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,769,338	2,769,338
資本剰余金	1,521,820	1,521,820
利益剰余金	3,356,126	3,447,484
自己株式	7,393	7,393
株主資本合計	927,639	836,281
新株予約権	1,462	1,462
純資産合計	929,102	837,744
負債純資産合計	3,699,026	2,802,576

(訂正後)

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成27年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,257,113	1,066,766
受取手形及び売掛金	439,852	226,949
商品	303,661	151,047
貯蔵品	20,759	21,844
その他	466,988	351,675
貸倒引当金	158,091	139,106
流動資産合計	2,330,284	1,679,176
固定資産		
有形固定資産	183,544	133,311
投資その他の資産		
投資有価証券	7,232	7,232
敷金及び保証金	1,071,123	1,002,218
長期前払費用	3,727	3,238
破産債権等に準ずる債権	430,664	294,608
その他	37,725	31,233
貸倒引当金	324,192	289,994
投資その他の資産合計	1,226,280	1,048,536
固定資産合計	1,409,824	1,181,848
資産合計	3,740,109	2,861,025

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成27年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	506,258	225,914
短期借入金	100,000	100,000
1年内返済予定の長期借入金	100,000	100,000
リース債務	6,125	6,110
未払金	670,839	405,633
未払法人税等	21,479	6,463
賞与引当金	2,300	3,302
資産除去債務	145,277	72,427
店舗等閉鎖損失引当金	79,251	37,109
その他	193,089	162,162
流動負債合計	1,824,621	1,119,124
固定負債		
長期借入金	200,000	200,000
リース債務	10,217	8,633
資産除去債務	259,044	260,674
長期未払金	264,984	264,200
訴訟損失引当金	22,757	22,757
その他	187,775	85,380
固定負債合計	944,778	841,645
負債合計	2,769,399	1,960,770
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,769,338	2,769,338
資本剰余金	1,521,820	1,521,820
利益剰余金	3,314,519	3,384,973
自己株式	7,393	7,393
株主資本合計	969,246	898,792
新株予約権	1,462	1,462
純資産合計	970,709	900,255
負債純資産合計	3,740,109	2,861,025

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第 1 四半期連結累計期間】

(訂正前)

(単位 : 千円)

	前第 1 四半期連結累計期間 (自 平成26年 1 月 1 日 至 平成26年 3 月31日)	当第 1 四半期連結累計期間 (自 平成27年 1 月 1 日 至 平成27年 3 月31日)
売上高	3,241,011	1,811,645
売上原価	1,671,519	883,474
売上総利益	1,569,491	928,171
販売費及び一般管理費	1,751,281	991,378
営業損失 ()	181,789	63,207
営業外収益		
受取利息	251	126
受取配当金	19,115	-
受取賃貸料	56,435	30,748
貸倒引当金戻入額	-	21,291
その他	17,778	8,729
営業外収益合計	93,580	60,896
営業外費用		
支払利息	2,800	5,924
賃貸資産関連費用	47,631	31,281
その他	15,167	12,029
営業外費用合計	65,600	49,235
経常損失 ()	153,809	51,547
特別利益		
固定資産売却益	-	16,507
新株予約権戻入益	4,114	-
その他	-	1,000
特別利益合計	4,114	17,507
特別損失		
特別退職金	-	45,136
解約違約金	3,650	-
その他	305	9,253
特別損失合計	3,955	54,389
税金等調整前四半期純損失 ()	153,649	88,429
法人税、住民税及び事業税	2,819	2,928
法人税等合計	2,819	2,928
少数株主損益調整前四半期純損失 ()	156,468	91,358
四半期純損失 ()	156,468	91,358

(訂正後)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成26年1月1日 至平成26年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成27年1月1日 至平成27年3月31日)
売上高	3,241,011	1,811,645
売上原価	1,662,675	862,570
売上総利益	1,578,335	949,075
販売費及び一般管理費	1,751,281	970,087
営業損失()	172,945	21,011
営業外収益		
受取利息	251	126
受取配当金	19,115	-
受取賃貸料	56,435	30,748
その他	17,778	8,729
営業外収益合計	93,580	39,604
営業外費用		
支払利息	2,800	5,924
賃貸資産関連費用	47,631	31,281
その他	15,167	12,029
営業外費用合計	65,600	49,235
経常損失()	144,965	30,643
特別利益		
固定資産売却益	-	16,507
新株予約権戻入益	4,114	-
その他	-	1,000
特別利益合計	4,114	17,507
特別損失		
特別退職金	-	45,136
解約違約金	3,650	-
その他	305	9,253
特別損失合計	3,955	54,389
税金等調整前四半期純損失()	144,805	67,525
法人税、住民税及び事業税	2,819	2,928
法人税等合計	2,819	2,928
少数株主損益調整前四半期純損失()	147,624	70,454
四半期純損失()	147,624	70,454

【四半期連結包括利益計算書】
【第1四半期連結累計期間】
(訂正前)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成26年1月1日 至平成26年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成27年1月1日 至平成27年3月31日)
少数株主損益調整前四半期純損失()	156,468	91,358
その他の包括利益		
その他の包括利益合計	-	-
四半期包括利益	156,468	91,358
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	156,468	91,358

(訂正後)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成26年1月1日 至平成26年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成27年1月1日 至平成27年3月31日)
少数株主損益調整前四半期純損失()	147,624	70,454
その他の包括利益		
その他の包括利益合計	-	-
四半期包括利益	147,624	70,454
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	147,624	70,454

【注記事項】

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

(訂正前)

前第1四半期連結累計期間(自平成26年1月1日 至平成26年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	持ち帰り寿し 事業等	寿しFC事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	2,455,483	785,527	3,241,011	-	3,241,011
セグメント間の内部売上高又は振替高	-	-	-	-	-
計	2,455,483	785,527	3,241,011	-	3,241,011
セグメント利益又は損失()	37,662	16,913	20,748	161,041	181,789

(注)1. セグメント利益の調整額には、各報告セグメントに配分していない全社費用161,041千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない当社の本社管理部門の配賦不能営業費用であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第1四半期連結累計期間(自平成27年1月1日 至平成27年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	持ち帰り寿し 事業等	寿しFC事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	1,424,208	387,437	1,811,645	-	1,811,645
セグメント間の内部売上高又は振替高	-	-	-	-	-
計	1,424,208	387,437	1,811,645	-	1,811,645
セグメント利益又は損失()	26,079	45,128	19,048	82,255	63,207

(注)1. セグメント利益の調整額には、各報告セグメントに配分していない全社費用82,255千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない当社の本社管理部門の配賦不能営業費用であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(訂正後)

前第1四半期連結累計期間(自平成26年1月1日 至平成26年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	持ち帰り寿し 事業等	寿しFC事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	2,455,483	785,527	3,241,011	-	3,241,011
セグメント間の内部売上高又は振替高	-	-	-	-	-
計	2,455,483	785,527	3,241,011	-	3,241,011
セグメント利益又は損失()	30,961	19,057	11,904	161,041	172,945

(注)1. セグメント利益の調整額には、各報告セグメントに配分していない全社費用161,041千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない当社の本社管理部門の配賦不能営業費用であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第1四半期連結累計期間(自平成27年1月1日 至平成27年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	持ち帰り寿し 事業等	寿しFC事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	1,424,208	387,437	1,811,645	-	1,811,645
セグメント間の内部売上高又は振替高	-	-	-	-	-
計	1,424,208	387,437	1,811,645	-	1,811,645
セグメント利益又は損失()	5,175	45,128	39,952	60,963	21,011

(注)1. セグメント利益の調整額には、各報告セグメントに配分していない全社費用60,963千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない当社の本社管理部門の配賦不能営業費用であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(1株当たり情報)

(訂正前)

1株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成26年1月1日 至平成26年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成27年1月1日 至平成27年3月31日)
1株当たり四半期純損失金額	8円82銭	3円07銭
(算定上の基礎)		
四半期純損失金額(千円)	156,468	91,358
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る四半期純損失金額(千円)	156,468	91,358
普通株式の期中平均株式数(株)	17,747,961	29,748,013

(注)潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期純損失金額であるため記載しておりません。

(訂正後)

1株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成26年1月1日 至平成26年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成27年1月1日 至平成27年3月31日)
1株当たり四半期純損失金額	8円32銭	2円37銭
(算定上の基礎)		
四半期純損失金額(千円)	147,624	70,454
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る四半期純損失金額(千円)	147,624	70,454
普通株式の期中平均株式数(株)	17,747,961	29,748,013

(注)潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期純損失金額であるため記載しておりません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成27年11月16日

株式会社小僧寿し

取締役会 御中

赤坂・海生公認会計士共同事務所

公認会計士 赤坂 満秋 印

公認会計士 海生 裕明 印

私たちは、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社小僧寿しの平成27年1月1日から平成27年12月31日までの会計年度の第1四半期連結会計期間（平成27年1月1日から平成27年3月31日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成27年1月1日から平成27年3月31日まで）に係る訂正後の四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

私たちの責任は、私たちが実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。私たちは、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

私たちは、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

私たちが実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社小僧寿し及び連結子会社の平成27年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

その他の事項

四半期報告書の訂正報告書の提出理由に記載されているとおり、会社は、四半期連結財務諸表を訂正している。なお、訂正前の四半期連結財務諸表は前任監査人によって四半期レビューされており、平成27年5月15日に四半期レビュー報告書が提出されている。

利害関係

会社と私たちとの間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. XBR Lデータは四半期レビューの対象には含まれておりません。